

[花き部門]

1. ブルーレースフラワーの効率的採種方法

[要約]

ブルーレースフラワーの自家採種は、11月に播種することで充実した種子を多く採種できる。また、開花後追肥を行うことで、充実種子数が増加する。

[担当] 野菜・花研究室

[連絡先] 電話086-955-0277

[分類] 情報

[背景・ねらい]

ブルーレースフラワーの自家採取種子は、発芽率が低いことが問題となっている。そこで、切り花栽培において、効率良く発芽の良い種子を得られる播種時期、追肥方法の確立を目指す。

[成果の内容・特徴]

- 1．11月播種の切り花栽培（加温開始温度10℃、電照により22時～2時の暗期中断）で自家採種すると、発芽の良い充実した種子を多く採種できる（表1）。
- 2．1月播種作型では、開花後追肥を行うことで、充実種子数が増加する（表2）。

[成果の活用面・留意点]

- 1．採取後の種子は、網目2mmの篩で予備選別し、その後無水エタノールに浸漬、攪拌し3分静置後沈殿した種子を使用する。エタノール浸漬処理後は、充分水洗する。
- 2．採種時期の目安は、花柄が茶色く枯れた時期とする。
- 3．品種は岡山県育成系統「SAB-イ」を使用した。

[具体的データ]

表1 播種時期が種子量に及ぼす影響

播種時期	平均 ^z 開花日	最終種子 ^y 採取日	種子採取時 花数/株 (個)	篩選別 種子数/株 (粒) (A)	エタノール浸漬 ^x 処理残存率 (%) (B)	充実 種子数 (粒) (A) × (B) / 100	充実種子 ^w 発芽率 (%)
1月	6月26日	10月14日	70	164	45	73.6	45
2月	7月5日	11月29日	34	28	33	8.7	36
3月	7月17日	12月24日	40	77	33	26.9	49
4月	8月11日	1月30日	50	84	55	46.8	71
5月	9月13日	4月25日	108	145	63	84.8	45
7月	2月12日	7月21日	154	95	11	10.5	22
9月	4月26日	8月2日	196	468	50	239.5	63
11月	5月27日	8月15日	175	827	44	363.6	63

^z第2小花開花日

^y小花の花柄が完全に枯れた際に採取

^x篩選別した種子50粒をエタノール浸漬処理し、沈殿した種子量から算出

^w播種21日後の発芽率

表2 1月播種における開花後の追肥が採種量に及ぼす影響

追肥量 ^z (窒素量/m ²)	平均 ^y 開花日	種子採取時 ^x 花数/株 (個)	篩選別 種子数/株 (粒) (A)	エタノール浸漬 ^w 処理残存率 (%) (B)	充実 種子数 (粒) (A) × (B) / 100
	ns ^v	ns	* ^v	** ^v	*
1200mg	6月27日	60	298 a	92 a	274 a
600mg	6月26日	71	156 b	93 a	145 b
無	6月25日	76	184 b	41 b	75 c

^z第2小花開花日

^y7月8日から液肥を週1回、3回施用(窒素1200mg/m²では、くみあい液肥2号500倍を2l/m²/回施用)

^x種子採取は10月中旬

^w篩選別した種子50粒をエタノール浸漬処理し、沈殿した種子量から算出

^v** : 1%水準で有意 * : 5%水準で有意 ns : 有意差なし(分散分析)
同一英文字間に有意差なし(Tukey-Kramer法)

[その他]

研究課題名：ブランド化を目指した特産花きの品種選抜と栽培法の改善

予算区分：県単

研究期間：2008～2010年度

研究担当者：藤本拓郎、中島拓

関連情報：平成22年度試験研究主要成果、57-58